

原点回帰・日本株ファンド (愛称: 円活 えんかつ)

ファンドの概要

設定日 2010年12月29日
償還日 2020年10月13日
決算日 原則毎年1月、4月、7月、10月の各10日
 (休業日の場合は翌営業日)
収益分配 決算日毎 (第2期以降)

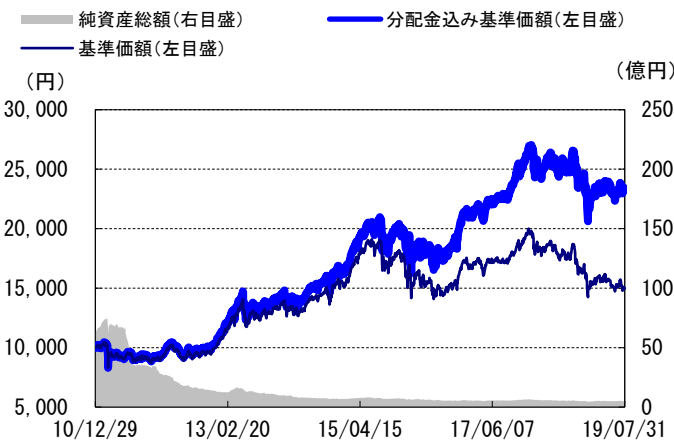
ファンドの特色

1. 配当利回り水準に加え、配当の裏づけとなるキャッシュフローにも注目して厳選投資を行ない、高水準かつ安定的な配当収益の獲得をめざします。
2. 原則として、年4回の決算時に収益分配を行ないます。

運用実績

※このレポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

<基準価額と純資産総額の推移>



基準価額 : 14,969円

純資産総額 : 4.89億円

<基準価額の騰落率>

1 ヵ月	3 ヵ月	6 ヵ月	1 年	3 年	設定来
0.30%	-2.90%	0.66%	-9.26%	28.61%	132.59%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

<分配金実績(税引前)>

設定来合計	直近12期計	16・10・11	17・1・10	17・4・10	17・7・10	17・10・10
6,970円	4,320円	360円	360円	360円	360円	360円
18・1・10	18・4・10	18・7・10	18・10・10	19・1・10	19・4・10	19・7・10
360円	360円	360円	360円	360円	360円	360円

※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

ポートフォリオの内容

※「資産構成比率」「組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を100%として計算したものです。
 ※「組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

<資産構成比率>

株式	97.4%
うち先物	0.0%
現金その他	2.6%

※「株式」には、不動産投資信託証券(REIT)の数値を含めております。

<組入上位10銘柄> (銘柄数 49銘柄)

	銘柄	業種	比率	予想配当利回り
1	東京海上ホールディングス	保険業	2.67%	3.27%
2	NEC ネットズエスアイ	情報・通信業	2.65%	2.82%
3	NTT ドコモ	情報・通信業	2.62%	4.58%
4	センコーグループホールディングス	陸運業	2.61%	3.04%
5	因幡電機産業	卸売業	2.61%	3.97%
6	アステラス製薬	医薬品	2.61%	2.57%
7	協和エクシオ	建設業	2.59%	3.04%
8	サトーホールディングス	機械	2.57%	2.75%
9	日本電信電話	情報・通信業	2.53%	3.86%
10	コメダホールディングス	卸売業	2.51%	2.52%

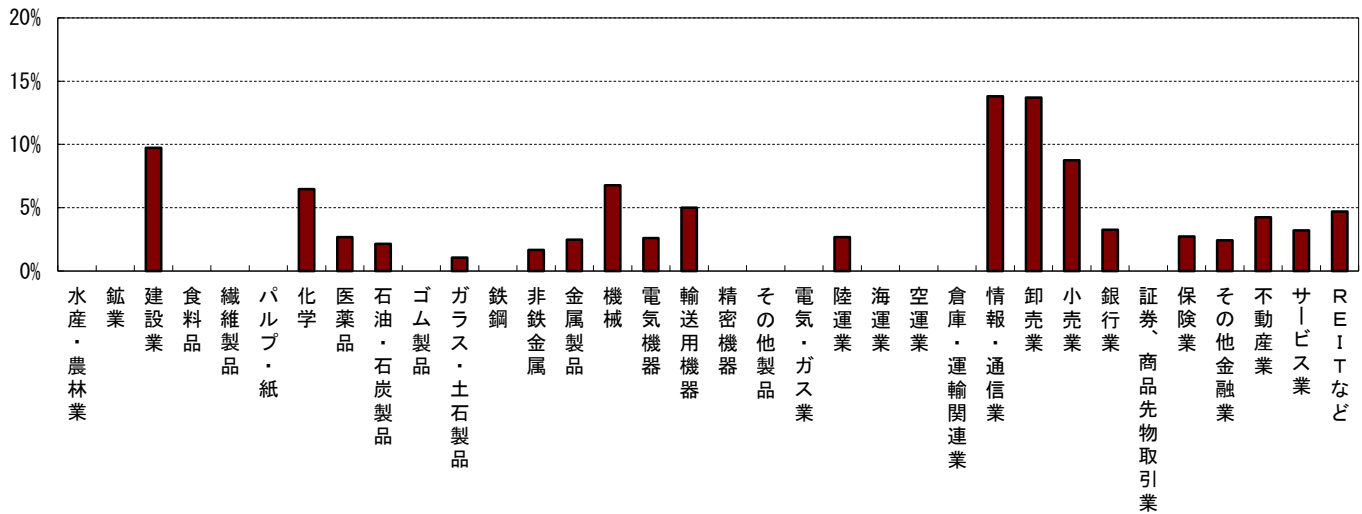
※上記利回りは、信託報酬などを考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものでも、将来得られる期待利回りを示すものでもありません。

※予想配当利回りの出所は東洋経済新報社の東洋経済業績予想データなどです。

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

<業種別構成比>



※マザーファンドの状況です。
 ※組入銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

<市場別構成比率>

市場	比率 (%)
一部上場	95.3%
二部上場	0.0%
ジャスダック	0.0%
マザーズ	0.0%
その他	4.7%

※マザーファンドの状況です。
 ※組入銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

<規模別構成比率>

時価総額	比率 (%)
2,000億円未満	37.1%
2,000億円以上 5,000億円未満	21.5%
5,000億円以上 1兆円未満	7.9%
1兆円以上	33.4%

※マザーファンドの状況です。
 ※組入銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

<ご参考情報>

	平均予想配当 利回り
ポートフォリオ	3.50%
東証一部全銘柄	2.50%

※上記利回りは、信託報酬などを考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものでも、将来得られる期待利回りを示すものでもありません。
 ※東洋経済新報社の東洋経済業績予想データなどを基に算出しています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

7月の国内株式市場は、東証株価指数（TOPIX）が前月末比プラス0.90%、日経平均株価が同プラス1.15%と上昇しました。大阪で行われた米中首脳会談で、米国が中国に対する追加関税の上乗せを見送ったことを受けた、貿易交渉の進展期待などから国内株式市場は上昇して始まりました。その後は、米国連邦準備制度理事会（FRB）議長の利下げに前向きな発言を背景とする、米国の利下げ観測の高まりなどが株価の下支えとなったものの、決算発表が本格化するなか、中国経済の減速を背景に、業績予想を下方修正する企業が出始めたことへの警戒感などから国内株式市場は下落しました。

東証33業種分類では、保険業、海運業、水産・農林業など17業種が上昇する一方で、鉄鋼、証券・商品先物取引業、石油・石炭製品などの16業種が下落しました。

◎運用概況

当ファンドは原則として、「予想配当利回りが市場平均以上の企業の中から、キャッシュフローに注目し、安定的な配当が期待できる企業を厳選して投資する。」という投資方針に基づいて、運用を行なっています。銘柄選定においては、配当利回りとキャッシュフローに注目するほか、中期的な業績見通し、財務内容、配当政策などを重視しています。現在のポートフォリオは、業種で見ると、通信会社や情報サービスなどの「情報・通信」、専門商社を中心とした「卸売業」、ゼネコンや設備工事会社を中心とした「建設」の他、「小売」、「機械」などの比率が高くなっています。このような運用の結果、当月末における当ファンドの基準価額は、前月末比でプラスとなりました。

◎今後の見通し

株式市場は、米国の金融緩和に対する期待や、米中摩擦に対する懸念がやや緩和されたことなどから、堅調な推移となっています。短期的には、米国の通商政策や主要国の経済指標の動向などを睨みながら、不安定な株価推移となる局面も想定されますが、日本企業の業績は底固く推移していることから、下値余地は限定的と考えています。また、中長期で見ると、日本企業の経営が構造的に変化し、成長に向けた投資や株主還元を積極化していることを背景に、上昇基調は維持されると考えています。当ファンドでは、配当利回りと配当の安定性に注目した投資方針を維持してまいります。企業訪問を中心とした調査活動によって、企業の競争力、今後の業績動向、株主還元に対する経営の姿勢などを精査することで、中期的に安定的な配当が見込まれる企業を選別してまいります。財務内容が健全で、将来に向けた成長戦略と、株主還元のバランスがとれた経営を行なっている企業を選別することで、企業統治改革が進む日本企業の構造的な変化を捉えることができると考えています。また、低金利が続いていることで、高配当利回り銘柄に対する関心が高まることが期待されます。投資対象としては、中期的に見た業績拡大と配当の成長が見込まれる「情報・通信」、「卸売業」、「建設」、「小売」などに注目しています。日本企業は、構造改革を進めた効果などによって業績の安定感が増しており、財務内容の改善も進んでいることから、資本効率を高めるために余剰資金を配当や自社株買いなどの株主還元に向けられる企業が増えることが想定されます。今後の増配基調が見込まれ、配当利回りの面でさらに魅力が高まると見られる企業を選別して投資を行なう方針です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／国内／株式
購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	※販売会社の照会先にお問い合わせください。
信託期間	購入申込受付日の基準価額
決算日	2020年10月13日まで(2010年12月29日設定)
収益分配	毎年1月、4月、7月、10月の各10日(休業日の場合は翌営業日)
	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
	※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
	※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。
	※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。
	※配当控除の適用があります。
	※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料

購入時の基準価額に対し3.24%*(税抜3%)以内

*消費税率が10%になった場合は、3.3%となります。

※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料

信託財産留保額

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用

(信託報酬)

ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.2528%*(税抜1.16%)

*消費税率が10%になった場合は、1.276%となります。

その他の費用・手数料

目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息、立替金の利息および貸付有価証券関連報酬(有価証券の貸付を行なった場合は、信託財産の収益となる品賃料に0.54*(税抜0.5)を乗じて得た額)などがその都度、信託財産から支払われます。

*消費税率が10%になった場合は、0.55となります。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	: 販売会社については下記にお問い合わせください。
	日興アセットマネジメント株式会社
	[ホームページ] www.nikkoam.com/
	[コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

- ・ 投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・ 当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

有価証券の貸付などにおけるリスク

有価証券の貸付行為などにおいては、取引相手先リスク（取引の相手方の倒産などにより貸付契約が不履行になったり、契約が解除されたりするリスク）を伴ない、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。貸付契約が不履行や契約解除の事態を受けて、貸付契約に基づく担保金を用いて清算手続きを行なう場合においても、買戻しを行なう際に、市場の時価変動などにより調達コストが担保金を上回る可能性もあり、不足金額をファンドが負担することにより、その結果ファンドに損害が発生する恐れがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様へ「原点回帰・日本株ファンド（愛称：円活 えんかつ）」へのご理解を高めさせていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認くださいのうえ、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は 日興アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書（交付目論見書）のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第15号	○		○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第624号	○		○	
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第114号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
 ※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

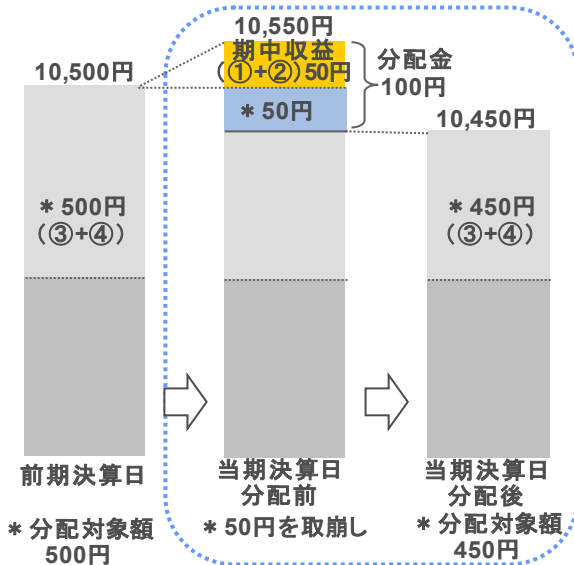
投資信託で分配金が支払われるイメージ



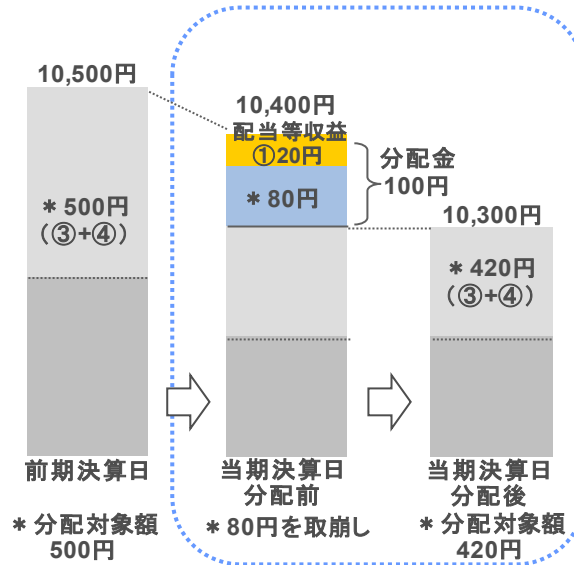
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



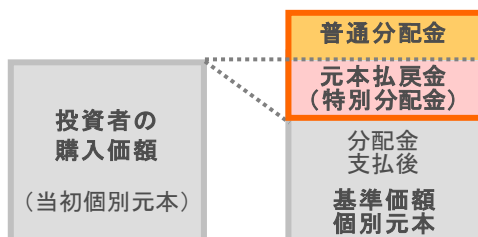
前期決算から基準価額が下落した場合



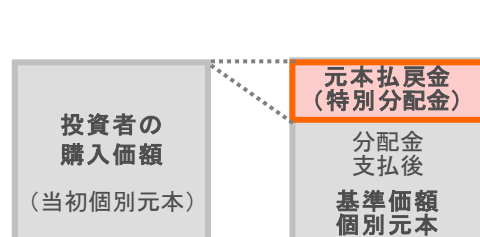
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
 ※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

- 普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
- 元本払戻金 (特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。